

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長
(公 印 省 略)

令和6年度農作物病害虫発生予察情報について

令和6年度農作物病害虫発生予報第13号を発表したので送付します。

令和6年度農作物病害虫発生予報第13号

令和6年12月20日
徳 島 県

I. 野菜
冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 12月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が14.0%、発病度が0.9)。

(2) 高松地方气象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。

(2) 多湿環境は発病を著しく助長するので、施設内が過湿にならないように十分換気を行う。

(3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。

(5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行う。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 12月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が3.3%、発病葉率が0.2%)。なお、発病果実も認めていない(平年同時期も未発生)。

(2) 高松地方气象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候

が続くなど十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。

(2)発病果や花卉などは伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

葉かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1)12月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が3.3%、発病度が0.2)。

(2)高松地方気象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続くなど十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。

(2)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(3)病斑は主に葉裏に形成されるので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ) (令和6年11月5日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1)12月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が85.7%と、平年(70.9%)に比べてやや高く、寄生葉率は14.3%と、平年(6.4%)に比べて高い。

(2)高松地方気象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1)12月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が16.7%、発病果率が0.2%と、平年(4.5%、0.1%)に比べてやや高い。

(2)高松地方気象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)気温が20℃位で多湿の時に発生しやすい。特に湿度の影響が大きいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続くなど十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないよう注意する。

(2)朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。

(3)発病果や花卉などは伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(4)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(5)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1)12月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(22.4%)並の発生であるが、発病葉率は0.3%と、平年(1.1%)に比べてやや低い。

(2)高松地方気象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1)12月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が36.0%、発病葉率が3.0%)。

(2)高松地方気象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)気温が25℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続くなど十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないよう注意する。

(2)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(3)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。なお、本県ではSDHI剤のボスカリド剤及びペンチオピラド剤で耐性菌が確認されている。

黒枯病

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1)12月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、発病度が0.5と、平年(1.7%、0.1)に比べて高い。

(2)高松地方気象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。

(2)罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(3)肥料切れや窒素過多などは発病を助長するので、肥培管理に注意する。

(4)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 12 月第 3 半旬の巡回調査では、発生圃場率が 33.3%と、平年(42.2%)並の発生であるが、寄生葉率は 0.7%と、平年(4.3%)に比べて低い。なお、被害果実は認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 14.0%、被害果率が 0.3%)。
- (2) 高松地方気象台が 12 月 19 日に発表した 1 か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ) (令和 6 年 11 月 5 日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 12 月第 3 半旬の巡回調査では、発生圃場率が 100%と、平年(66.4%)に比べてやや高く、寄生葉率は 46.3%と、平年(11.5%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が 12 月 19 日に発表した 1 か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 12 月第 3 半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 3.1%、寄生葉率が 0.1%)。
- (2) 高松地方気象台が 12 月 19 日に発表した 1 か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春キュウリ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 12 月第 3・4 半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 36.9%、発病葉率が 2.6%)。
- (2) 高松地方気象台が 12 月 19 日に発表した 1 か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(3)同一系統薬剤の連用は耐性菌出現の恐れがあるので避ける。

べと病

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1)12月第3・4半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%と、平年(13.0%)に比べてやや高く、発病葉率が4.0%と、平年(0.9%)に比べて高い。

(2)高松地方气象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続くなど十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。また、灌水過多にならないよう注意する。

(2)肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。

(3)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。

(4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

褐斑病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1)12月第3・4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が10.0%、発病葉率が0.2%)。

(2)高松地方气象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の多湿化を防止する。

(2)肥料切れや窒素過多などは発病を助長するので、肥培管理に注意する。

(3)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。

(4)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。なお、本県では、アゾキシストロビン剤、ボスカリド剤、ジェトフェンカルブ・プロシミドン剤に対する耐性菌が確認されている。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1)12月第3・4半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が5.6%、寄生葉率が0.1%)。

(2)高松地方气象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 12 月第 3・4 半旬の巡回調査では、発生圃場率が 11.1%、寄生葉率が 0.2%と、平年(10.5%、0.3%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が 12 月 19 日に発表した 1 か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬レタス

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 12 月第 3 半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が 2.3%、発病株率が 0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が 12 月 19 日に発表した 1 か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場の排水をよくする。また、トンネル内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 収穫期には株元が繁茂して過湿となるので、発生しやすい。
- (3) 発病株は伝染源になるので、できるだけ早く処分する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

菌核病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 12 月第 3 半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が 17.8%、発病株率が 0.6%)。
- (2) 高松地方気象台が 12 月 19 日に発表した 1 か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) トンネル内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病株を放置しておくとな多数の菌核を形成して伝染源になるので、できるだけ早く処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 12 月第 3 半旬の巡回調査では、発生圃場率が 8.3%、寄生株率が 0.2%と、平年(8.6%、0.4%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が 12 月 19 日に発表した 1 か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難となるので、初期防除に努める。

冬春ホウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 12月第3半旬の巡回調査では発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (2) 高松地方気象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 徳島県では、本病原菌レース1～13まで確認されているため、品種はレース1～13に抵抗性があるものを利用する。
- (2) 抵抗性品種でも突然発生することがあるので、発病好適時の栽培では、薬剤の予防散布を行う。
- (3) 平均気温が8～18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるよう丁寧に散布する。
- (4) 罹病株を圃場に放置すると伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取って速やかに処分する。
- (5) 葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 12月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が18.2%、1株当たりの寄生虫数が0.0頭と、平年(21.1%、0.1頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難となるので、初期防除に努める。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 12月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が3.7%、発病葉率が0.1%)。なお、発病果も認めていない(平年同時期は、発生圃場率が1.5%、発病果率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 古葉を早めに除去し、葉裏に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 罹病した果実や茎葉などは伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 12月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が8.3%、発病果率が0.1%と、平年(2.2%、0.0%)に比べてやや高い。

(2)高松地方気象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないよう換気を図る。

(2)発病果は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(3)耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)12月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%、寄生株率が4.7%と、平年(23.2%、5.2%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

ハダニ類

1)予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)12月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が8.3%、寄生葉率が0.3%と、平年(48.7%、5.7%)に比べて低い。

(2)高松地方気象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1)予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)12月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%と、平年(6.3%)に比べて高いが、寄生花率は0.3%と、平年(0.4%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が12月19日に発表した1か月予報では、気温は低く、降水量は少なく、日照時間は多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

II. その他

1)ハウスやトンネル等で密閉保温していると、内部が多湿となり、病害の発生に適した条件となるため、晴天時の日中には換気を十分行うとともに、夜間は暖房機の温度を高めに設定して施設内の湿度低下を図ること。

2)薬剤の使用にあたっては、必ず農薬ラベルの記載事項を遵守すること。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL： <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。